

秋田のおもな文化財

旧秋田銀行本店本館

国重要文化財

秋田市

明治45(1912)年に秋田銀行本店として建築されました。れんが造り三階建て外観はルネサンス様式、内部はバロック様式で、県内に残る明治末期のれんが造り建築として貴重な建物です。

旧黒澤家住宅

国重要文化財

秋田市



黒澤氏は佐竹氏に仕えた上級武士で、代々寺社奉行などの要職を勤めました。住居は久保田城の城下町、現在の秋田市中通にありましたが、昭和63年に一つ森公園に移築されました。武家住宅の屋敷構えを今に伝えています。

藤倉水源地水道施設

国重要文化財

秋田市



秋田市水道部によって明治44(1911)年竣工し、上水道専用の貯水・取水用ダムとして昭和48年まで使用されました。ダムを備えた近代水道施設として全国的にも古いものです。

旧奈良家住宅

国重要文化財

秋田市

奈良家は、県内屈指の豪農で、現在の建物は九代目が宝暦年間(1751~1763)に建てたものと伝えられています。建物は両端を前面に突き出す両中門造です。現在秋田県立博物館の分館として公開されています。

銅造阿弥陀如来坐像

国重要文化財

秋田市



秋田県でただ一つの重要文化財指定の彫刻です。坐高で四尺に達する大型の金銅仏は、全国的にも類例が少なく、平安時代後期作と考えられています。ゆったりとした姿やなめらかな衣文、おだやかで上品な表情が特徴です。

菅江真澄遊覧記(明徳館献納自筆本)

国重要文化財

秋田市



菅江真澄は三河国(愛知県)に生まれた紀行家です。この遊覧記は、1783年に故郷を出て、1829年に秋田領内で没するまで各地を歩いて残した、日記や記録で、江戸時代やそれ以前の各地の自然・文化などを知る貴重な資料です。

秋田城跡

国史跡

秋田市

高清水の丘陵に置かれた奈良・平安時代の城柵官衙遺跡です。出羽国北部と蝦夷地経営の目的で、陸奥国(宮城県)の多賀城とともに東北地方の政治・軍事の中心として、10世紀頃まで機能しました。

平田篤胤墓

国史跡

秋田市



平田篤胤は国学四大人の一人です。久保田に生まれ江戸に出て国学を志し、『古史伝』など多数の著書を選しました。

地藏田遺跡

国史跡

秋田市



御所野台地の南西部にある旧石器時代、縄文時代、弥生時代の遺跡です。特に木柵で囲まれた弥生時代前期の集落跡とその南東側の墓域などがセットで発見された遺跡は全国的にも類例がなく貴重なものです。

女潟湿原植物群落

県天然記念物

秋田市

県立小泉瀧公園のなかにある大規模な低層湿原です。丘陵と砂丘に囲まれた湖沼として縄文時代に成立したと考えられています。湿原特有の多くの生物が生息し、学術的にも貴重な植物などが確認されています。

絹本著色千山万水図(渡邊崋山筆)

国重要文化財

秋田市



江戸時代の政治家・画家である渡邊崋山によって天保2(1841)年に描かれました。西洋美術の画法を取り入れ、色彩の濃淡をつかい、山々の立体感、遠近感をだそうとしています。

秋田万歳

県無形民俗文化財

秋田市

万歳は、太夫と才蔵が正月に訪問先の家をたたえ、家族の長寿を祝う祝福芸です。祝詞万歳、囃子万歳、囃万歳で構成されています。